

深澤孝史「都市の芸術と山の芸術」



再開第2弾の北海道芸術学会アートトークは、大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」はじめ、さまざまな芸術祭で作品を発表されているアーティスト 深澤孝史さんです。

深澤さんは、複数の現実が「共に在る」ということについて考えるプロジェクトを多様な現場で実施。昨年より「アケヤマー秋山郷立大赤沢小学校ー」（2024～、大地の芸術祭、津南町）という「山から生き方を学ぶ学校」として民俗、アート、人類学などを横断するアートセンターの全体の監修を担当。人類学の巨匠といわれるティム・インゴルドさんをお招きして、山の芸術についての講演会も開催しました。

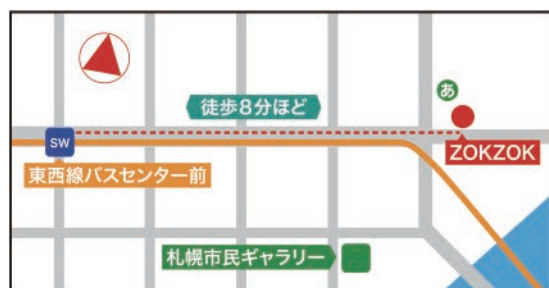
また2011年より、人の得意なことを預けてもらい運用することで仮設的な公共の場をつくる《とくいの銀行》を茨城県取手市で開始。現在、白老町やシンガポールにも支店があります。札幌では、2014年の札幌国際芸術祭で実施後、札幌を拠点にしつつ、各地の芸術祭に参加しています。

今回は、ご自身の活動をレクチャーいただきます。都市と山の芸術を軸に今、現代美術においてどのような視点が必要なのか、またサイト・スペシフィックなアートの身体性も語っていただければと思います。

2025 年 **12 月 5 日(金)** **19:00～20:30**

※レクチャー後の対話含む

対話 ● 深澤 孝史 | 小田井真美 (さっぽろ天神山アートスタジオ AIR ディレクター)



最寄りの駐車場は
あるばかりパーキング(有料)
ただし台数に限りあり

会 場 ● 実験施設 **ZOKZOK**

札幌市中央区大通東7丁目18-1 ノースシティ大通ビル

参加費 ● **500 円**

終了後、会場にある茂呂剛伸さんの縄文 BAR で交流会を行います。
自由参加、飲み物は BAR で各自購入。食べ物は持ち寄り自由ですが、
ゴミは各自持ち帰ってください。

深澤 孝史

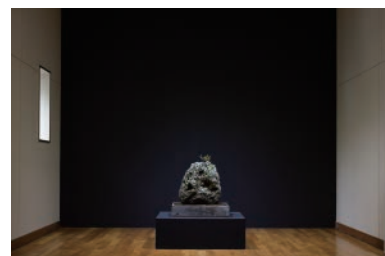
ふかさわたかふみ

1984年、山梨県生まれ。

美術家。SIAF(札幌国際芸術祭)
2014をきっかけに結婚、2015
年に札幌に移住しました。

最近はワダラ狸というウサギを
捕る狩猟に成功したり、藤の蔓
から糸を續んだりしています。

また、11月まで新潟に滞在し、
佐渡鉱山の世界遺産の問題につ
いての作品を制作中。



上《続秋山記行「藤ノ木サカ
家に朝鮮人労働者から送ら
れた庭石、または慰霊碑」》

2024 撮影：木奥恵三

下《持続するワダラ狸》2025